



PRIMEPOWER-V2X 接続検証結果報告

2003 年 3 月 11 日

日本ストレージ・テクノロジー株式会社
オンラインストレージ事業部

1. 検証概要

富士通製 UNIX サーバ PRIMEPOWER と、ストレージ・テクノロジー社製ディスクアレイ V2X を接続し、データ転送およびディスクアレイのソフトウェア機能が正しく動作することを確認した。加えて、ベリタスソフトウェア社 VCS を使用し、2 台のサーバでボリューム共有した場合の動作を確認した。

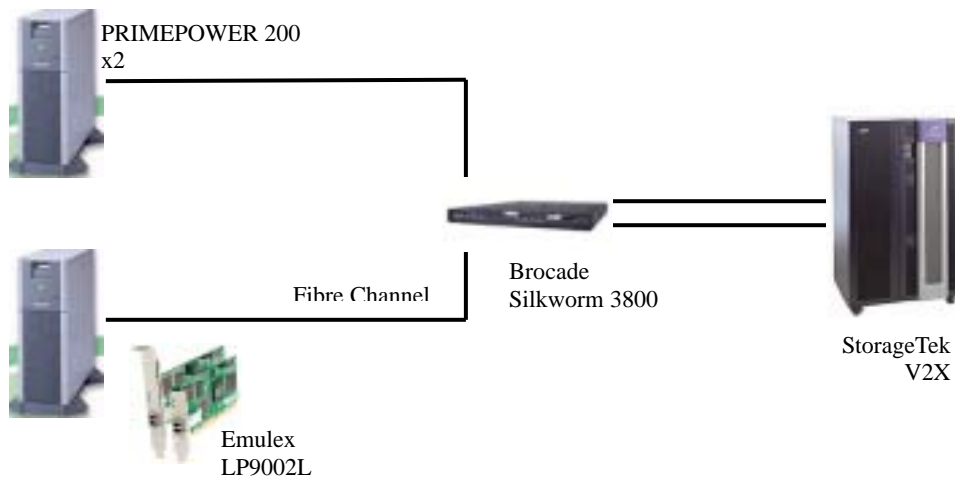
2. 検証期間/場所

期間: 2003 年 2 月 18 日 ~ 2 月 22 日

場所: 日本ストレージ・テクノロジー株式会社 東京コンピテンシー・センター(TCC)

3. 検証環境

3.1. 検証環境概略図



3.2. 検証機器

サーバ (下記同じものを2台使用)

PRIMEPOWER 200 SPARC64 IV 400MHz x 2CPU, Memory 1GB
FC-HBA Emluex LP9002L-F2 (lpfc 5.00i)
OS Solaris™ 8 Operating Environment
S/W SVApath 3.3 * パス・フェールオーバ
VCS 3.5 (Veritas Cluster Server)

ファイバーチャネル・スイッチ

Brocade 3800

Firmware 3.0.2c

注:HBA各1枚からスイッチ経由でV2Xの2パスに接続した

ディスクサブシステム

StorageTek V2X Shared Virtual Array (SVA)

Model V2X-1A2 500Z

Cache 32GB

Microcode EC B01.02.00.01

Disk drives 36GB (15,000rpm) x 32

4. 検証項目

4.1. PRIMEPOWER 単体でのテスト

- (1) サーバからV2Xボリュームへのリードおよびライト
- (2) パス・フェールオーバ
- (3) パス・ロード・バランシング: 同じボリュームにリードとライトを実施し、両経路が使用されることを確認。
- (4) Snapshotの起動、停止とスナップショットボリュームへのリード/ライト

4.2. クラスタ構成でのテスト

- (5) 2台のサーバから同じV2Xボリュームを認識
- (6) GABディスク(Heartbeat)としてのV2Xボリュームの利用
(テストはしたが、HeartbeatにはIPの使用が推奨)

- (7) パス・フェールオーバ: 1パス・フェールに対しては、パス・フェールオーバのみ発生し、ノード・フェールオーバが発生しないことを確認
- (8) ノード・フェールオーバ: 2パス・フェールに対しては、ノード・フェールオーバが発生することを確認
- (9) データの整合性: サーバ1からのUFSでのライト後、ノードを切替え、サーバ2からデータが正しくリードできることを確認
- (10) ストレステスト: サーバ1からLUN1へ、サーバ2からLUN2へI/Oを継続実行し正常に動作することを確認(24時間)

5. 検証結果

PRIMEPOWER と V2X の接続において、パス・フェールオーバ、ロード・バランシング、スナップショットを含めた RAID ボリュームの利用、および、VCS でのボリューム共用が可能であることを確認できた。

- 以上 -